



多文化共生時代の福祉を考える

こころの家族

No.360

2024年11・12月



今年も盛り上がった故郷の家・京都の夏祭り(9ページに記事)

平和のともしび

日本を助けよう。

高齢者を助けよう。

低出生人口減少問題だ。年に80万人ほど減っている。堺市規模の都市が一つずつ無くなっているのは深刻である。

介護の現場だけではなくすべての業種で人が不足している。中でも若い人が不足している。コロナの地獄からぬけ出し、高齢者サービスを忠実にするには人が足りない。

今、かろうじて運営していても「スペアタイヤなしに走る車と同じ」だ。予備人材がない。何かあった時には高齢者を守るか不安だ。

今、ロシアによるウクライナ侵略戦争やイスラエルによるパレスチナ戦争が拡大している中、現地では孤児、障害児者、未亡人が故郷を離れ難民生活を余儀なくされている。

高齢者を守り、高齢者が幸せになるために、若い人たちが日本で働く機会をつくってあげたい。

国に協力を求めながら、この人たちの中から孤児として育ち勉強したい人には奨学金の支援をしたい。

韓国木浦では、80歳、90歳と年老いた共生園の卒園生たちが子どもたちと一緒に共生園で暮らしたいという。

彼等の言葉に私はいつも教えられる。

若い人が故郷の家で共に暮らすようになれば高齢者の皆様はどんなに喜ぶだろう。

社会福祉法人こころの家族
尹基 (Tauchi Motoi)

こころの家族 36周年記念礼拝を挙行

2p

インタビュー

ニューコミュニティ西宮チャペル 小平牧生・恵さん夫妻

6~7p

ブネ・メソッドセミナー開催 3p
「生きる」..... 4p
佐野良一さんを悼む 5p

こころの家族創立36周年記念礼拝を挙行

9月29日、社会福祉法人こころの家族が創立36周年を迎えるにあたり、9月30日(月)に記念礼拝並びに職員表彰が堺市にある「故郷の家」で執り行われました。

司会を務めた多胡元喜理事の発声で礼拝が始まりました。讚美歌では、多胡理事と朴正米神戸施設長のお二人の素晴らしい歌声に会場が包まれました。朴永権牧師による

お祈りの後、藤森真人牧師によるメッセージでは、ご自身の辛かった幼少期の話を交えながら、今あることへの感謝の気持ちを伝えてくださいました。その後、お祈り、祝福をもって温かな優しい雰囲気の中、礼拝が終わりました。

職員表彰も実施

▲礼拝を終えて、みんなで記念写真
 ◀表彰を受ける吉田津志子さん

2024年度の職員表彰では、堺市南第2地域包括センターの職員一同並びに故郷の家・京都事務職員の吉田津志子さんに、井手之上優評議員より表彰状ならびに賞金が授与されました。

地域包括支援センターは、昨年度の堺市における「地域包括支援センター事業評価」にて満点の評価を取得。センター職員一人ひとりの日頃の業務への取り組みに対し、功



淀橋教会聖歌隊がやってきた

故郷の家・東京

績を感謝し表彰されました。吉田さんは、施設における介護保険請求に関わるミス事前に発見し、行政と早期に対処したことについて、その功績に感謝し表彰されました。表彰の後、理事長が「行政からは自ら正直に申告した

ことに対して評価を頂いた。こころの家族のスタンスは、隠すのではなく、まさしく誠実に前向きに取り組む法人である」と宣言、記念礼拝並びに職員表彰が滞りなく終了しました。

10月12日、淀橋教会聖歌隊のみなさんが故郷の家・東京を訪問、司会・指揮者・ソロの竹内そのかさんの見事なリードのもと、素晴らしい歌声、ハーモニーを聴かせてくださいました。

利用者さんも歌える童謡、唱歌をプログラムに加えていただき、みんなで盛大に合唱することもできました。手拍子される方や、手を振る方などもおられ、とても楽しんでいらつしやる様子でした。また、同教会の峯野龍弘牧師の愛あるメッセージも聞くことができ、密度の濃い、充実したコンサートになりました。

ブンネ・メソッドセミナー開催

ジャズライブも大好評

雲史ホール



ブンネ楽器の使い方などを指導した
アンダース・モスさん



客席の人たちも参加

スウェーデンで生まれた楽器「ブンネ楽器」は「音楽をより多くの人がすぐに楽しめる楽器」。故郷の家各施設ではこの楽器を使った音楽療法「ブンネメソッド」に取り組んでおり、日頃の取り組みの発表会を兼ねた「第9回ブンネメソッドセミナー」が10月5日、故郷の家・京都の雲史ホールで行われました。



場内を大いに沸かせた
ジャズライブ

「ブンネ楽器」で より多くの人に音楽を

今回のセミナーには、開発者のステン・ブンネ氏亡きあとを引き継いでいるアンダース・モスさんも来日して参加、楽器の音や使い方を直接伝授しました。

また、故郷の家3施設のご利用者が舞台の上でブンネ楽器の合奏を披露。大きな拍手が贈られました。

スウェーデン・ヨーテボリでバイオリン製作を学んだモスさんはバイオリン演奏も披露。アップテンポな民族音楽で会場を沸かせました。セミナーラストには、サクソフオーン奏者の松林杏悟さんと洗足学園音楽大学ジャズコースの学生たちのグループが登場。ご利用者は、サククスやトロンボーン、ドラム、ピアノで会場で響き渡る「聖者の行進」のジャズバージョンで始まったライブに大喜び。「ムーンライトセレナーデ」などで楽しんだあと、グループとモスさん、客席の人たちも一緒にブンネ楽器を演奏し締めくくりました。

セミナーの企画に協力した一般社団法人・日本ブンネ音楽協会の代表理事・廣田加代美さんは「高齢者施設の故郷の家で若者たちのジャズ演奏を掛け合わせるのには挑

戦でしたが、世代も国籍も音楽を介してミックスしご利用者様からリズムにのって元気になる様子を拝見できてうれしい時間でした」と、また、モスさんは「たくさんの方々にブンネ楽器を体験してもらい素晴らしいセミナーでした」と、振り返りました。



故郷の家のご利用者のみなさんも練習の成果を披露

仕事をしながらホームで暮らす

野田和男さん(73歳)

故郷の家・東京では「都市型軽費老人ホーム」事業も展開しています。同ホームで5年前から生活されている野田和男さんは施設内で「仕事」をこなしながら暮らす希少なご入居者さんです。今号の「生きる」では野田さんの生活ぶりや、事業内容についてご紹介いたします。



「都市型軽費老人ホーム」は、都市部で身体機能の低下などで自立した日常生活を営むことに不安がある方、また低所得者で家族による援助を受けることが困難な高齢者が、低額な料金で入居でき、日常生活のサポートを受けながら、安心して生活ができることを目的として設置されています。

野田さんは1951年(昭和26年)11月、深川生まれ

和26年)11月、深川生まれ。ちやきちやきの江戸っ子です。2人の兄たちとともに、家族で可愛がられて育ちました。軽度の知的障がいを持つていますが、1982年から製作工場でプレスの仕事を続けてきました。

23年前、それまで一緒に暮らしてきた母親が亡くなり、その後は一人暮らしに。近くに住む長兄のお嫁さんが食事を用意してくれていました。そのお嫁さんも80歳の高齢となって食事の支度が困難になったことから2019年、故郷の家・東京への入居が決まりました。

入居してからも製作所での勤務を続けていました。しかし、長年朝から夜まで続けている仕事ですが賃金は上がりません。その様子を見ていた朴正米前施設長が「故郷

の家・東京での清掃の仕事」への転職を提案。住まいとなつていいる施設での清掃の仕事がスタートしました。

仕事は月曜から水曜廊下やホールをモップで拭いたり、植木の水やりも。「この施設は大きいから掃除も大変」と、野田さん。でも、職員やほかのご入居者さんから「きれいにしてくれてありがとう」と、声をかけられるととても嬉しい。とも。また、近くに長兄と今は埼玉県に住む次兄が訪ねてきてくれるのが楽しみです。それにも増して毎日の愉しみは、夕食時のビール!「この食事はおいしいからビールも美味しい」と、茶目つ気たつぷりの笑顔を見せてくれました。



— 30 —

日中韓のアーティストの作品を展示 故郷の家・京都 雲史ホールで

どを展示した別室も設置されました。同展覧会は、今年5月にソウルで開催された第9回日・中・韓サミットを機に当法人の福祉文化担当の河明求(ハミョング)さんが企画したもの。出展した作家は韓国の柳 濟閔(リュ・ジェユン)、中国の方圓、日本の岡本秀の3人。共に作家活動歴が10年以下で自国の大学を卒業した後、日本所在の大学院で修士課程を修了、そして現在、関西を拠点に活動しています。

3人の作家たちの作品が展示された新たなギャラリーは異空間となりました。粘土と釉薬、油絵の具などで作陶した柳さんの奇想天外な作品「山と隠れん坊」や、絹本に岩絵具で描かれた方圓さんの「小人の国:共生」、高知麻和紙に岩絵具・墨・染料で描かれた岡本秀さんの「簾のある画面」など迫力ある作品が展示され圧巻。

当法人田内基理事長は、「施設から外出できないご利用者のために、ギャラリーやホールでの催しをライブで観ていただけるようなシステムをこれから整えていく予定です」と、話しています。



出品作家の1人、方圓さん(右)と河明求さん

故郷の家・京都の多目的ホール(雲史ホール)のロビーがこの度、ギャラリーとしてリニューアル。ギャラリー誕生の第一弾として陶芸と日本画の新進気鋭の作家たちによる展覧会「日・中・韓の青年がつくっていくものがたり」が9月3日から20日に開かれ、大勢の人たちが鑑賞に訪れました。

ギャラリー入り口には壁面一面に韓雲史さんのポर्टレートが飾られ、可動式照明も設置。韓雲史さんの書な

震災時、教会がボランティアの拠点に

インタビュー

小平牧生 恵さん

会報360号では、「ユー・コミュニケーション」西宮チャペル（兵庫県西宮市）の牧師夫妻の小平牧生さんと恵さんにお話を伺いました。牧生さんは当法人の理事も務めて下さっています。教会は三田と学園都市にもチャペルがあり西宮チャペルも合わせて200人余の会員が想いを一つにし、「コロナ後は激変したものの毎週の礼拝には70〜80人の人たちが礼拝堂に集います。西宮に古くから伝わる酒蔵の要素を取り入れたコンクリート作りのモダンな教会は、阪神淡路大震災後には地域の拠点となりました。高身長で中高時代はバスケットボール選手だった牧生さんと絵と音楽にと多才な恵さんは導かれるように牧師となり、共生や福祉に取り組む教会の舵取りをしています。



学生の頃から共生園を支援

——当法人との出会いはいつでしたか

恵 故郷の家が日本に開設される前、私は牧師になる決意をして24歳で神学校に入学しました。次の年に森山論先生（日本イエス・キリスト教団顧問、荻窪栄光教会を創設）が神学校に「自身がお書きになられた書籍『真珠の詩』を持ってこられて初めて田内千鶴子さんと故郷の家のルーツである児童養護施設・共生園を知り感銘を受けました。1983年です。当時私は神学生で仕事もなくて支援は無理だろうと諦めかけたのですが、資料を見たら、支援の仕方にも段階があつて、なんとか私でも支援ができるかもしれない、と連絡をしました。そして、中学生だった女の子の里親になりました。直接はお会いできませんでしたが、メガネをかけたしつかりしたお顔の女の子で、お手紙のやりとりをしていました。その子どもさんが20歳になったことを機に「もう、大丈夫です」と、支援ストップのご連絡を共生園から戴き、終了しました。

牧生 彼女は私と結婚してからも支援をしていたので共生園の存在も知っていましたし、尹基理事長のことや、森山先生が韓国の共生園の支援をしていることも存じ上げていました。

でも、このころの家族の存在を意識的に強く思った最初は1995年に起こったに阪神淡路大震災の時でした。震災後地域の教会が集まり復興の支援活動をしていました。2年後、田内千鶴子さんの生涯を描いた映画「愛の黙示録」が完成したと聞き、復興支援ミニストリーとして西宮アミティホールで映画会を開催しました。そのとき私は事務局の仕事をしていましたので映画の原作となった物語を読み、田内千鶴子さんと息子である尹基理事長とのやりとりもあり、共生園や今の法人への想いが深まりました。映画会には理事長もいらしていただきました。

——牧師を目指した経緯を教えてください

牧生 父・照夫は東京お茶の水の教会で副牧師をしていましたが、私が生まれてすぐに母・邦子と共に現在の西宮教会を開拓。この教会を創設しました。両親の働きは尊いと思いつつも自分が牧師になる道を明確に選択できないと思ひ、東京の青山学院大学に進学しました。ところが在学中にイエス・キリストを信じる確信が与えられ、卒業後に神学校に進みました。親元を離れて信仰的に自立したんでしようね。

——両親のことを教えてください

牧生 戦争を体験し、両親ともクリスチャンではないところから育ったこともありパッションが強い。父は長野県出身で戦後、東京の大学に進み、下宿先のご家庭がクリスチャンだったことから信仰を持ちました。母は秋田県出身で、就職で東京へ。友人に誘われて教会に通うようになり父と出会ったようです。今父は97歳、母は91歳で元気です。共に教会の開拓者なので歳をとっても教会への想いは強いです。

——子どもとして反抗することはありましたか

牧生 大学に進学する際、牧師の家庭なので経済的に豊かではなくて、両親は関西圏の国公立の大学進学を望んでいました。でも私は、関西の大学に進学するとずっとこの道を抜けられない、外に出るチャンスだと東京の大学受験を決めていました。父には地元を第一志望にして東京で受験させてほしいと頼んだんですが結局、私は両親には内緒で関西の国公立の大学は受けなかった。受験日の朝、母はお弁当を作ってくれ、私は受験をしたふりをして帰ってきたんです。後になってそのことを両親に話しましたが2人とも勘づいていたようで何も言いませんでした。神学校を卒業してインターンとして名古屋で牧師を始めて1年後、27歳のときに父の体調が悪くなりこの教会に戻ってきました。西宮には帰ってきましたが今でもあのとき家を出たことは良かったと思っています。

——恵さんの牧師への道のりを教えてください

恵 私の両親も牧師でしたので、教団の転任で生まれたのは岡山県で、2歳で北海道に。そして15歳の時に茨城県で父が神学校の舎監になり、20歳の時に父の出身教会の山形の米澤教会に赴任しました。15歳で洗礼を受けましたが、精神的にはまだまだ子どもで。高校を卒業して水戸で就職すると「世の中にはこんなに楽しいことがあるんだ！」と毎週の礼拝には通いながらも心は信仰から離れていました。ところが21歳のときにある出来事があり、自分の罪の姿に愕然として仕事も辞めその頃の友達とも別れ山形の両親の元に帰りました。そして24歳で神学校に進みました。

——漫画家として活動されていたこともあるとお聞きしました

恵 元々絵を描くことが好きで、横浜の教会の牧師をしている友人の教会員に「いのちのこぼれ」の方がいらして私のことを話したことから月刊誌「らみい」（いのちのこぼれ）に、漫画『教えて神さまのこぼれ』を、その後、「リバイバルジャパン」に「かとうけい」のペンネームで『すべての山に登れ』というエッセイを連載しました。現在は、教会学校で使う絵を描いたりしています。

——冒頭にお話しくださった阪神淡路大震災の時はどんな状況でしたか

牧生 教会は震度7の地域が一番東だった。阪神高速がすぐそこで落ちて教会は西宮市指定避難所になりました。

恵 教会の外観は無事だったんですが礼拝堂のスレートが落ちたり内部はかなり傷みました。

牧生 あれから来年30年になります。その時、韓国から学生たちがボランティアに駆けつけてくれました。甲子園までは電車が復旧したのですがこの場所から先の神戸には指定車両しか入れなかったのが教会の駐車場が救援物資の置き場になりました。ワールドビジョンの現地事務所がこの教会に設置され、当時、国際協力NGOワールドビジョン・ジャパンの理事長だった淀橋教会の峯野龍弘主管牧師（当法人前理事で現在評議員）も物資を持ってこられ、この教会で寝泊まりされました。カナダなど世界からボランティアの方々が来られて教会が宿泊施設になりました。日本はその時「ボランティア元年」と言われ、来てくださる方々の寝具の用意や食事にあたふたしましたが、海外の方々には寝袋や食料も持ってこられてこちらに寝る場所と地域情報を提供するだけでした。当時、延べ人数約300人の人たちが寝泊まりしていました。教会の歴史の中でも大きな出来事でした。また、地域の人たちも教会を信頼してくださる大きなきっかけとなりました。



恵さんの作品から

——思い出に残るボランティアの思い出を教えてください

牧生 カナダから老夫婦が来られて。当初私たちは目に見える肉体労働をしてくれる方が来られると思っていたので少し意外でした。地域の人たちが震災後は家に一人でいるのが不安だと教会にお茶を飲みに来られるんですね。ご夫妻はその方たちと一緒にお茶を飲んでご自宅に送っていかれる。言葉は通じなくても一緒に「居る」だけです。地域の人を家まで送っていく2人を見送りながらボランティアは目に見える助けだけではなく、人生を多く歩んできて喜び悲しみを経験した方が、寄り添い共感するということが大事なんだなあと、学びました。

——その後、地域に開かれた教会になられている

牧生 元々、ワールドビジョンのチャイルドスポンサーの活動や、福祉・共生の分野でも取り組んでいます。1983

年、この地に建築された西宮チャペル教会堂は、著名な建築家・出江寛さんの設計で、出江さんはこの功績により関西建築家大賞を受賞され、建築を学ぶ学生さんが全国から見学に訪れてくれます。出江さんは今年お亡くなりになり、息子さんから当教会で追悼展を開催したいと企画中です。

恵 礼拝堂は音響も良く、コンサートを開きたいと音楽家からも要望があり、心に響くコンサートになると喜ばれています。

牧生 また、新たな取り組みとして本格的には今年の春からですが週に1回「放課後学習会」が行われています。教会は場所をお貸しするだけで主催は会員で結成したチームです。社会福祉協議会や地区青少年愛護協議会にも協力を仰いでこの小学校区の子どもたちが集まって宿題をしたり遊ぶなどの活動をしています。今は約30人の子どもたちが登録、チームメンバーとの世代間交流も微笑ましいものがあります。

遠く離れても忘れられない「故郷」

——故郷の家は高齢者施設です。これからの高齢者施設はどうあつてほしいと望まれますか

恵 震災後、姉妹教会のある韓国に行き、慶州にある韓国に嫁いだ日本女性が暮らす老人施設を訪問しました。偶然同じテーブルの方が標準語だったので「日本ではどちらの出身だったのですか？」と尋ねました。すると「あなたは分からないだろうけど、北海道の留辺蘂（るべしべ）というところだよ」と私はビックリしました。15歳まで育った私の故郷だったんです！それから一緒に大きな声で小学校校歌を2番まで歌いました。その方にとっては60年も前の校歌を覚えていることに感動しました。「故郷の家」は、いろんな事情で韓国から日本に来られた人たちの「ふるさと」の文化や食を日常で過ごしてほしいという願いから始まった施設で素晴らしいと思っています。私たちは故郷を離れても心の中で忘れられない。

牧生 逆に故郷がない方もいらつしやいますよね。でもふるさとの感覚は大事だと思います。ふるさとがない世界の方々にとって故郷の家がまさに「ふるさとの家」となり、世界の結び目になればいいと願います。（聞き手・横山まゆみ）

* 小平牧生（ごだいら まきお）

キリスト兄弟団西宮教会主任牧師、アジアンアクセス日本理事長、JCE7（第7回日本伝道会議）実行委員長、社会福祉法人こころの家族理事。

1958年生。76年青山学院大学卒業。85年大阪キリスト教短大神学科専攻科を経てキリスト兄弟団聖書学院卒業。86年キリスト兄弟団西宮教会の主任牧師に就任。同年、聖書学院の同級だった加藤恵と結婚。

著書に「有能であるよりも、有益であること」を（いのちのことば社、2016年）

小平恵（ごだいら めぐみ）

キリスト兄弟団西宮教会主任牧師、1958年岡山生まれ。82年キリスト兄弟団聖書学院入学。86年小平牧生と結婚。

2002年〜10年、月刊誌「らみい」（いのちのことば社）に、漫画「教えて神さまのこと」を連載、12年3月〜13年3月「リバイバルジャパン」（現在は「舟の右側」にエッセイ「すべての山に登れ」を連載）

おどる

堺・大阪・神戸・京都・東京

「故郷の家」各施設のホットな話題をお伝えします

※各施設のブログもご覧ください。QRコードからどうぞ！



ハーモニカで奏でる
日韓の曲



から楽しんでいただいた内容となりました。すでに、次の訪問を希望しておられ、今度は、もっと韓国を希望して、韓国のお曲を韓国の方にお聴かせたいです。

9月25日にハーモニカコンサートを開催しました。演奏して下さったアンチョンヒさんは、熱烈に故郷の家・東京での公演を望んでいらつしやいました。特に韓国の利用者様にどうしても聴いていただきたいということで、レパートリーは150曲も用意していたとのこと。もちろん、日本と韓国の曲を半分ずつ演奏して下さって、すべての利用者さんが心から楽しんでいただいた内容となりました。すでに、次の訪問を希望しておられ、今度は、もっと韓国のお曲を韓国の利用者様にお聴かせたいです。

東京

盛大に、華やかにファッションショー！



9月16日の敬老の日、今年も盛大にファッションショーが開かれました。

昨年同様、東京オンヌリキリスト教会の方々が、30名も駆けつけ

てくださり、ヘアメイク、ドレスアップ、そして思いっきり利用者の皆様に応援してくださいました。新しい利用者様も増え、夫婦でご参加されるなど心機一転のショーでしたが、相変わらずレッドカーペットを歩かれた皆さんは、一瞬でモデルに早変わり。とても楽しまれ、ご満足されている様子が感じられて、ほほえましかったです。



神戸



ふれあい盆踊りに参加

猛暑が続く8月中旬、地域の催しである「ふれあい盆踊り」に参加しました。万全の暑さ対策をし、会場につくと大きな太鼓を叩くことができました。夏の暑さも吹き飛ばすような大きな太鼓の音色に笑顔が見られました。



ピアノ演奏会とケーキバイキングで敬老会

敬老会では今年百歳の方や百歳を超えられる方にお祝いの言葉と花束を贈呈し、ピアノ演奏会とケーキバイキングを実施しました。

ケーキバイキングではご利用者様がご自身で4種類の中から好きなケーキを選び召し上がられました。おやつに出た沢山のケーキに「美味しかった」や「また食べたい」と言われ、参加されたご利用者様はおやつを楽しんでいた様子でした。



屋上で五山の送り火を楽しむ

8月16日、「京都五山の送り火」を施設屋上から見ました。

夏の夜空を彩る「京都五山送り火」は、東山に大の字が浮かび上がり、続いて、松ヶ崎に妙・法、西賀茂に船形、大北山に左大文字、そして、嵯峨に鳥居形が点ります。故郷の家・京都からは「法」と「船形」を見ることができ、点火するまで、スカイラウンジで、ジュースやビールで乾杯＝写真＝し、テレビの中継を見ながら待ちます。

いざ、点火すると、皆で屋上に出て、思い思いに感傷に浸りながら、夏の終わりを実感しました。



京都



今年も盛り上がった「夏祭り」

8月23日、毎年恒例の「夏祭り」を行いました。

昨年同様、ボランティアの皆様、地域の方々、入居者の家族様にも大勢参加していただき、たいへん盛り上がりしました。屋台で食べ物を買って、家族皆で食べる



様子や子ども達がゲームコーナーで楽しむ微笑ましい光景が至るところでみられました。

毎年恒例のスイカ割りも行い、入居者様の掛け声、太鼓の叩く音で、子ども達がスイカを棒でたたき割り、割れたスイカはカットして皆さんに振舞いました。また、ボランティア公演では歌や踊りを披露してくだ

さり、参加された入居者様、家族様も一緒になって踊ったり、歌ったりとたいへん盛り上がりを見せました。

クライマックスは3か月前から練習した盆踊りを参加者全員で踊って楽しみ、最後に花火をしてお開きとなりました。

とても暑かったです。が、皆様のご協力もあり、無事に夏祭りができたことに心より感謝申し上げます。

堺



大正琴の素敵な調べ♪



10月12日(土)、琴城流大正琴・堺貴抄会7名様がボランティア演奏にお越し下さり、全13曲をご披露いただきました。

堺では敬老の日の催しがコロナの流行で中止となっており、久しぶりのホール

でのイベントでした。利用者様も楽しみにされており、大正琴の美しい調べと懐かしいメロディに熱心に耳を傾けられたり、口ずさんだり、それぞれが音の世界に浸っておられました。

「知っている曲ばかりでうれしかったわ!」と皆様大変喜んでくださり、堺貴抄会の先生からも「久しぶりに訪問できてよかったです。また練習して来ますね」とのお言葉を頂き、アンコールのリクエストにも応じてくださるなど、終始なごやかで素敵な時間を過ごしていただきました。



一生懸命、練習しました!



真剣な表情で熱心に取り組まれているのは堺のブンネ隊のメンバー。10月5日に京都で開催されたブンネ・メソッドセミナーでの演奏を控えての練習風景です。堺では定期的に練習を行っています。演奏のために、いつも以上に活動し、練習を重ねてまいりました。「お上手ですね。手を柔らかくすると、もつといいですよ」「リズムばっちりですよ」など、インストラクターの資格を取った職員のアドバイスに大きくうなずきながら、当日を楽しみに取り組まれていました。

■ 共生園（養護施設） 「ダビデ地域隊スカウト活動」／ 国土巡礼ウォーク

夏休みに子どもたちと先生が同じ夢を達成する経験を試みようと、国土巡礼を行い、朝鮮半島最南端の海南郡松湖里から木浦共生園まで1泊2日のウォーキングをしました。

感想文（キム・クアンボク）

国土巡礼をしながら、いろんなことを考えました。そして、皆それぞれにとっても大きな成長をいただろうと強く感じました。先生方がよくおっしゃる「一度やってみてから言いなさい」という言葉が今回の国土巡礼でとても身に沁み、なんでもチャレンジしてみたいと思いました。

感想文（ソ・ヒョン）

2日間かけて海南郡松湖里から木浦まで国土巡礼をした。3年前にチャレンジした時は完歩できなかったが、今回は最後まで根気強く歩き、無事に完歩できた。前回と比べて自分がこんなにも成長していたとは思わず、この機会を通して、自分の成長した姿を見られてとてもうれしかった。また、仲間と助け合いながら一緒に歩けたので元気が出た。大変ではあったけれど、気づきもある有意義な時間だった。



■ 共生再活院（知的障害者施設）

ソマンハウスの暑気払い!!

猛暑の夏、全羅南道唐津郡の鏡浦台溪谷に行ってきました（写真右上）。

冷たい溪流が流れる足湯に靴下を脱いで足を入れると、暑さが一気に引く感じでした。昼食には夏のスタミナ食である鰻の蒲焼を食べて、夏バテ気味の体に気力を補いました。月出山の景色を眺められるカフェでは黒胡麻かき氷やブルーベリージュースを味わいながら、この間のストレスを吹き飛ばしました。

海南へ1泊2日のキャンプ旅行

体験ホームの利用者さんたちが、夏休みに海南郡のタンクマウルにあるグランピング施設へ1泊2日の旅に出かけてきました。

オーシャンビューの宿を見るやいなや、歓声を上げて喜び、広くてきれいなプールで浮き輪に乗って水遊びをしながら久々のゆったりした時間を楽しみました（写真右下）。

キャンプにお肉なしではさびしいですね。夕食は美味しいサンギョップサルを食べ、ラウンジから流れる音楽や赤く染まった夕焼けが夏の夜を素敵に演出してくれているようで、幸せな時間を過ごしました。



■ 木浦障害者療養院（重度障害者施設） チュソクの過ごし方



民族の伝統的な祝日である「チュソク（秋夕）」を迎えた木浦障害者療養院からのお便りです。ここに住んでおられる70名の重度障害者の皆さんは、この連休中にチュソク料理作り、チーム対抗や個人戦の民俗遊び、最新のDVD鑑賞、お墓参りなど様々なプログラムに参加し、楽しい中秋節を過ごしました。



皆様のご支援に感謝申し上げます



2024年8月～9月 寄付合計 3,767,345円

堺	448,890	円	京都	499,400	円
大阪	2,000	円	東京	170,000	円
神戸	53,700	円	法人	2,593,355	円

2024年8月～9月の寄付者 (敬称略)

竹井 光江 匿名希望者 本河 みぎわ 李 善恵 松下 令子 王 寛一 蔡 福美 福原 佳子 金 順子 藤原 一臣 李 守陳 中村 啓子 藤田 裕之 星田 正雄 金 慶光 ペン株式会社 金氏高麗人参株式会社	(有)テラヲ貨物店 公益財団法人日本財団 会長 笹川 陽平 田内 緑 (株)スポーツ寿苑 代表取締役 鄭 貞子 瀧澤 織衣 佐藤 友美 佐藤 美津子 小林 璋子 多胡 元喜 「ハートサービス運 動」募金箱 オヒョンスク 柳川 良子 田中 孝一 故郷の家・京都 募金箱 武山商事(株)	吉澤 まゆみ 株式会社ヤマエンター プライズ 代表取締役 池 正淑 枝川 愛の教会 橋本 正明 峯岸 義則 菅野 俊美 千代崎 せつ子 浅野 征三 小林 四郎 角替 豊 四宮 章夫 株式会社京都スペー サー 坂口 伸宏 岩田 卓三 青木 茂 松本 光恵	張 宏司 ヤングスチール株式 会社 代表取締役 崔 相英 田中 伸枝 藤原 興 オートプロ島田 島田 隆男 徐 鍾煥 金下 慶子 上尾 明美 ながやま歯科 永山 成大 田内 文枝 相談事務所 代表 寺澤 元一 日本弟子達の教会 朴 永佶	(株)グローバル代表取締 役 川島 忠義 田内 基 松下 良平 赤羽 隆志 宮原 智文 佐竹 敬 多田出 佳代子 観寺 伊津美 浅野 和子 樽井 幸一郎 岡 真由美 田中 富美子 金 慶子 サムスン ノーブルカ ウンティ
--	--	---	---	---

2024年8月～9月の寄贈者 (敬称略。すべての方のお名前を記しているわけではございません。ご了承ください)

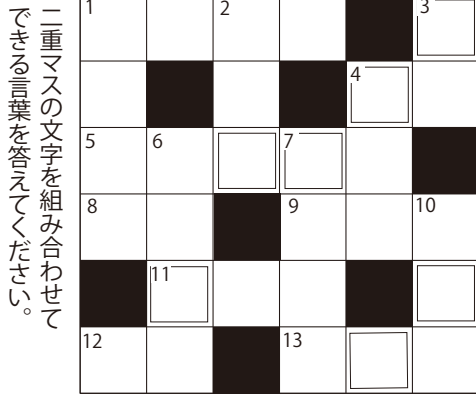
■故郷の家(堺) 大井 敏子ご家族 青田 進ご家族 中川 憲司ご家族 山本 耕一ご家族 中村 志奈子ご家族 桐山 成子ご家族 ひかりグループ(株) 片山 誠司 ■故郷の家・神戸 (株)テストイパル 渡邊 由美 金 泰淑ご家族 金谷 小香ご家族	氷室 悦子ご家族 カナン教会 松下 裕夫ご家族 フィジオデザイン 中西 貴美香 濱口 美里 葛原 美代子 新本 慶子ご家族 平安祭典 青田 都子ご家族 張 守行ご家族 浅野 和子 ■故郷の家・京都 玉川 久子ご家族	本田歯科 坂本 信一ご家族 (株)テストイパル 松本 花子ご家族 山浦 和子 青木 志津子ご家族 梶 寿美子 柳 祝男ご家族 栗原 美代子ご家族 高島 伯奈子ご家族 南 奇順ご家族 昇 正子ご家族 赤井 美和子ご家族 嘉門 和美ご家族 斉藤 夕里子ご家族	新武 大和ご家族 ■故郷の家・東京 小船井 ハツイご家族 佐藤 那可子ご家族 神田 英資ご家族 松島 れい子ご家族 信 栄子ご家族 金谷 奉姫ご家族 金 淑貞ご家族 芳賀 初子ご家族 根津 仁香 富山 トシ子ご家族 南ソウル教会 Ohana治療院	まごころ屋 平安祭典 ekoデンタルクリニック ポスコジャパン株式会 社代表取締役社長 金 相均 株式会社テストイパル 韓国江陵原州大学社会 福祉課
--	---	---	---	--

2024年8月～9月の来訪者・ボランティア (敬称略)

■故郷の家(堺) 泉北恵み教会 松本 光恵 小田 ヒターナ ■故郷の家・神戸 サランの会 永田 いずみ 関 京子 韓国仁川地域長老会 戸田 和子	カナン教会 あんだんて ■故郷の家・京都 鄭 仁淑 (カラオケ・夏祭り) SHINKA (夏祭り) 金サラン、鳥井しん平 (夏祭り) 「懐メロ聴くの会」3名 (カラオケ)	金元珍(夏祭り) 東九条マダン(秋夕) 尹 道心(お茶会) 安本 二美代 (お茶会・夏祭り) 京都PANA-ALC 3名 (傾聴ボランティア) 作家 3名 (雲史ホール 作品展)	■故郷の家・東京 村上 里子 中島 榮美 金 在真 金 明均 大島シオン教会 勝山牧師 東部教会 鄭牧師 枝川愛の教会 趙牧師
---	---	---	--

お詫びと訂正 前号(359号)で寄贈者のうち「かなばら果樹園」様のお名前が誤って「かなばら果樹園」となっておりました。また、ボランティアさんの一覧から「在日本大韓民国婦人会大阪府地方本部オモニコーラス」様のお名前が抜けておりました。大変申し訳ございませんでした。

◆ クロスワードパズル ◆



※前回の答えは「セーヌ川」でした。

【ヒント】灯火親しむの候…

二重マスの文字を組み合わせてできる言葉を答えてください。

- ↓ **タテのカギ**
- ①心を深く動かされること。
 - ②立ち直ること。
 - ③「不能」。
 - ④地震に続いて大雨。心配ですね。
 - ⑤「?」セーフ? 審判の判定は…。
 - ⑥水生植物の一種。
 - ⑦正しくないこと。
 - ⑧「ー県」といえば香川のこと。

→ ヨコのカギ

- ①衆議院にはあるが参議院にはありません。
- ④「夏草やつわものどもが夢の——」
- ⑤故郷が同じこと。「——のよしみ」
- ⑧雨の多い時期。
- ⑨遠く離れた海上にぽつんと一つだけある島。絶海の——。
- ⑩物価高騰が——を直撃!
- ⑫勇敢で強い人。
- ⑬ウイルスによる感染症。「はしか」ともいいます。

● プレゼント



正解者の中から10名さまに、こころの家族特製2025年カレンダー(広げるとA3サイズ。画像は表紙イメージ=変更の可能性があります)をプレゼントします。

応募は、クロスワードパズルの答、住所・氏名・電話番号をお書きのうえ、はがきなら〒590-0142堺市南区檜尾3360-12「故郷の家・クイズ係」へ、メールでの応募は news@kokorono.or.jp へどうぞ。12月10日締め切り。

本誌をお読みになった感想、メッセージなどもどうぞお書き添えください。お待ちしております!

お気軽に
お問い合わせ
ください。

故郷の家のご利用相談や
寄付。困っている高齢者、
留学生、外国籍の方も

■ **故郷の家(堺)** 辻野やす子(施設長)
大阪府堺市南区檜尾3360-12 TEL 072-271-0881
ブログ <http://kokyosakai.blog40.fc2.com/>

■ **故郷の家・大阪** 田中久美子(主任ケアマネ)
大阪府大阪市生野区中川2-4-26 TEL 06-6753-6580
ブログ <http://kokyoosaka.blog79.fc2.com/>

■ **故郷の家・神戸** 朴正米(施設長)
兵庫県神戸市長田区東尻池町7-4-21 TEL 078-651-1555
ブログ <http://kokyokobe.blog40.fc2.com/>

■ **故郷の家・京都** 藤原一臣(特養施設長)、金滋榮(ケアハウス施設長)
京都府京都市南区東九条南松ノ木町47 TEL 075-691-4448
ブログ <http://kokyokiyoto.blog41.fc2.com/>

■ **故郷の家・東京** 高橋千津子(特養施設長)、塩川優子(ケアハウス施設長)
東京都江東区塩浜1-4-48 TEL 03-3644-0555
ブログ <http://kokyotokyo5.blog.fc2.com/>

本法人は統一教会とは関係ありません

共に希望に生きる

人は、誰しも懐かしい思い出に満ちたふるさとをもっている。ふるすとは、生まれ育った所であると同時に「帰る」所であろう。人生の喜びと悲しみ、栄光と重荷を背負って帰り着くところがふるさとであれば、なんと素晴らしいことではないか。そこでは、経験を分かち合い、共に希望をもって生きることができる。(阿部志郎・神奈川県立保健福祉大学名誉学長)

こころの家族のサポーターになってください

- A) 愛の寄付金 …………… 自由な金額
- B) 遺贈寄付 …………… 自由な金額
- C) 相続寄付 …………… 自由な金額
- D) 賛助会員 …………… 月1,000円(年1万2千円)
- E) 奨学会会員(留学生や孤児・障害児支援) …… 月5,000円(年6万円)
- F) 1%会員(所得、売上、祝儀、遺産、感謝)
- G) 1坪会員(施設の新築・改築や環境改善支援) …… 30万円

ご送金の方法

郵便振替 □座番号: 00940-0-329280
加入者名: 社会福祉法人こころの家族

銀行振込 銀行名: 三菱UFJ銀行
支店名: 光明池支店 普通 1052623
口座名義: 社会福祉法人こころの家族

寄付申込書

年 月 日

*この申込書を FAX でお送りいただく下記施設まで郵送をお願いします。

FAX 072-271-5474 または 03-3644-0556

ふりがな
お名前

連絡先 〒

TEL

(自宅・会社)

FAX

ご寄付内容 ※具体的な支援先や事業名があれば、口数や金額とともに記入してください。

- 例1: ●(B・賛助会員)として(2)口、(年2万4千)円を寄付します。
- 例2: ●(E・1坪会員・堺)として(1)口、(35万)円を寄付します。

●()として()口、()円を寄付します。

